



[講演]

中国の日本語教育の 動向と日本語教育 専門家の取り組み

華東師範大学教授、日本語教育研究センター主任
徐 敏民

○徐 ご紹介にあずかりました徐敏民と申します。よろしくお願いたします。まずこの場をお借りしまして、立教大学にこのようなチャンスを与えていただいたことに対して、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、次のような流れで、私の時間でできる限りご説明させていただきたいと思います。【スライド④-2】

まず、戦後における日本語教育ですけれども、最初 1965 年までというのは、最初の日本語教育、日本研究は北京大学を初めとする、限られた幾つかの大学でスタートしたものです。66 年から 71 年まで、断絶期というのは、文化大革命中に進めることができなかつた時期です。72 年に国交正常化されてから、78 年までは、日本語教育を徐々に始めた時期です。私の勤めている華東師範大学も、その時期にスタートして、その当時上海で日本語学科のある大学は、3 つしかありませんでした。復旦大学、上海外国語大学、それからうちの大学です。78 年以降は統一試験が復帰して、正式に、本格的な日本語教育が行われるようになりました。日本語学科を立ち上げた大学も徐々に増えてきました。

90 年代に入ってから、つまり中国の解放・改革の政策のスタート、語学の勉強はどうしても政治経済に左右されるということは、ここで改めて申し上げたいと思います。2001 年ということは、つまり 99 年以降は拡大・募集のため、大学の大量化、一人っ子政策もあって、どうしても親としては、子どもを大学に入れたいということです。だから、その時期から大量化されて、現在まで続けております。【スライド④-3, 4】

これは華東師範大学日本語教育研究センターが発足してから、華東地区でスピ

ーチコンテストを3年間連続して行って、その後に行われた1つの調査です。2006年は、ピーク、一番盛んに行われた時期だったと思います。2008年以降、リーマンショックの後はだんだん、少しずつ下降の状態だったんですけども、その当時、華東地区の教師、大学院生、学部生の割合はごらんのとおりです。大学の日本語学部の教師と学生の人数で、教師は500人ぐらいですけども、院生、それから学部生は1万人ぐらいです。その当時、華東地区全部で43の大学に日本語学科がありました。【スライド④-5, 6】

大学受験生ですけども、本科生が一番伸びているし、第二外国語としての日本語も、各大学で非常に人気があります。ちなみに現在、全国で日本語学科のある大学は大体460校、英語は900ぐらい、決して少なくない。フランス語とドイツ語は大体100以上ですけども、日本語学科は絶対的に今、量が多いですけども、どのように量から質に変更するかは今の課題です。【スライド④-7】

2006年の時期から、各大学で日本人教師は大体2名です。専門家と言いますが、80年代までの専門家は、大体文部省、あるいは高校の国語教師で、国と国との間の交換だったのですが、90年代以降、各大学は独自で求めるようになって、うちの大学も、今年は初めて日本語教育の修士課程を修了した、若い先生を専門家として取り入れ、学生から評価されています。【スライド④-8】

年齢層ですけども、51歳、今この辺は、徐々に定年退職、日本で言う団塊の世代みたいに、どんどん定年を迎えている、かつての大平学校の卒業生も定年を迎える時期になっていますので、この辺はこれからどんどん小さくなります。でも35歳以下も少ないけれども、博士学位を持たなければ大学に勤めることができないのが今の現状です。【スライド④-9】

教員の学歴ですが、今は博士、かつては大卒も教師になれたけれども、今は修士も難しいような状況に変わりました。【スライド④-10】教授、助教授、今は教授のほうがかなり厳しい。助教授もうちの大学の場合、だんだん厳しくなって、やはり学会誌に何篇か論文を発表しなければ、非常に厳しくなっています。教授が定年退職したら非常に難しい、各大学は今、直面している大きな課題です。【スライド④-11】

高校における日本語教育については、ちょうど去年、私は国家のプロジェクトを担当して、調査を行いました。まず、こちらは国際交流基金の調査結果で、今、高校の日本語教育は、ほとんど東北3省に集中していることが分かります。【ス

ライド④-12】 2001年は600校ですけれども、今はもう3分の1しか残っていません。去年の我々の調査の結果ですけれども、生徒はどんどん少なくなっていることがわかりました。本当はこの政策は、少数民族のために、中学、高校は、第一外国語を日本語として残しているのですが、東北3省27の高校を現地調査をしたところ、朝鮮族の大多数の親は韓国に出稼ぎに行ってから、英語を勉強しないと、ということで、自分の子どもにまず英語を勉強させないと、と気づいていることがわかりました。それで朝鮮族でさえも、日本語を勉強する生徒が少なくなっていて、むしろ英語が苦手、或は落ちこぼれの学生が日本語を選ぶという状態になっています。**【スライド④-13】**。

これは高校の日本語教員の調査結果です。27の高校でインタビューとかアンケート調査を行いました。**【スライド④-14】** 教員の調査の結果、日本語を教えてから5年未満は4分の1、5年から10年の間は少数、大多数は10年以上44名います。年齢は本科生が大多数ですが、あとは短大卒とか、非日本語学科の卒業生もわずかですが、まだ高校で教えています。**【スライド④-15】**

それで問題になっているのが、日本語の学生の質の低下です。今までは日本語を選んでよかったけれども、今は日本語を選ぶ学生の質が低下しています。その原因の一つは、大学受験に不利という点です。例えば一流大学の場合、第一外国語を日本語としている高校生を受け入れない、拒否されるからです。大学院、あるいは留学するときも、いろいろ制限されて、優秀な学生はみんな英語を選んだので、日本語を第一外国語としている学生の質はどんどん低下してしまいます。もう一つ、教師の問題、教員研修が少ないということです。特に東北地方の場合、中学、高校では、現場の教師は1人か2人で頑張っている、それから高齢化になっている、教師の専門知識とかいろいろ問題が存在しています。中学、高校の教材はとても新しいです。でも教師はこの新しい教材、あるいはカリキュラムが理解できない。だからカリキュラムの実施は非常に問題になっています。我々の調査の目的は、これからカリキュラムの改定版を作成するためです。**【スライド④-16】**

ご覧のとおり、日本語といっても、やはり東北3省は、排斥はしません。日本語は存続してほしいと思っています。校長先生へのインタビューもしましたが、どうしても朝鮮族、あるいはモンゴル族の人にとっては、第一外国語が英語だと、すぐ負担になる。つまり朝鮮語とモンゴル語も勉強しなければならないから、

やっぱり言語の近い日本語を存続してほしいというのが調査の結果です。中国は多民族ですから、なくすことはないだろうと思います。【スライド④-17】

大学での日本語教育の現状と問題点といいますと、【スライド④-18】日本語教育のカリキュラムの設定と教材開発は非常に停滞していると思います。精読用の日本語教材は5部ぐらい、ほとんど受験勉強、知識偏重、文法・語彙教育を中心に、教師が中心になってしまっています。ここで私があえて言いたいのは、日本語能力テストはもちろんいいことですが、逆に私が疑問も持っているのは、能力テストを最終目的としている大学も多いということです。うちの大学だったら、能力テストを受けても受けなくてもいいですけど、でも中国では8級と4級というテストもあって、それも受験勉強につながる。もう一度、再構築する必要があるかと思います。

本当の日本語教育はどうなっているのか。今の460の大学に日本語学科がありますけれども、ほとんどは就職のための日本語教育になっている。それなのに、十分にコミュニケーションできない、就職のときの面接も困っているという大学の学生が多いです。ですから異文化理解のための日本語表現能力の人材育成は非常に大事ということ、我々は今、認識しておりますし、新しい教授観に基づいた教授法と教材開発、カリキュラム開発、改革が必要だということを強調したいです。

ですから、どうしたらいいのか、中国人独自の教材開発は、私はもう限界になっているとちょうど悩んだ末に、3年前中日の共同研究プロジェクトを発足させました。この中日の共同研究プロジェクトの発足は中国では初めてです。『新界標日本語総合教程』の第1冊、2冊は横浜国立大学と、第3冊、4冊は立教大学と連携して作ることになっています。これから多分、日本語教育の現状は大きく変わると思います。【スライド④-19】

ですから時代の変化に応じた、我々の共同研究は基礎日本語の基礎の上に「Can-do」という理念に基づいて、国際的視野を持つ人材育成とつながるような新しい教科書を作っています。受信から発信、就職のための日本語教育から、相互理解を促進するための教授観に展開することは、時代の流れに合わせて求められた課題だと思うからです。【スライド④-20】

これは2年前に横浜国大での、教材編集会議のときの写真です。ご覧の通りです。【スライド④-21】丸山先生は立教大学に移りましたが、奥野先生は首都大

学東京に今年移りました。つい2～3日前に撮った写真です。【スライド④-22】

この教科書は、これからは、学生の思考能力と表現能力を育成することを重視しなければならないということです。学生を中心とする教育理念は非常に新しいです。中国では今まで、教師は絶対的な存在だったのです。学生も先生に言われたとおり、本当に素直に、非常に教えやすいというか、自分で頑張っていて勉強してくれるんですけども、でもこれからは、ロールプレイやタスクとか、自己評価のような、新しい理念を導入したいと思います。【スライド④-23】

これは『新界標日本語総合教程』の特徴です。下敷きとなった『基礎日本語』の長所を生かしながら、新しい教育理念の徹底。能力テストとの関連性も重視する。各課にはまずCan-doを入れる。それから文法教育、知識重視から、表現能力への展開をします。会話はもちろん、文法体系もきちんとしています。それは従来の中国の日本語教育の良さをなくさないで、それから話す、読む、書く、聞く、総合的に行うということの意味します。【スライド④-24】一番強調したいことは、精読の授業で、ロールプレイとタスクを入れるということです。つまり、学生は今まで受け身の学習から、自分から何かをする。ロールプレイ、My Can-doをつくる学習へと変わります。【スライド④-25】。それからタスクはプレゼンテーションを毎週1回、1年生のときから。それから書く練習も重視。作文を書くということは、従来は2年生後期以降ですけれども、もう初級から、



1年生のときから書く練習をする。そうすると学生の思考能力を育てられます。【スライド④-26】

なぜカリキュラムを改革する必要があるのか。【スライド④-27】 Can-doの理念に基づいて作られた教科書は、知識偏重から、学習者を中心とする教授法の変動です。カリキュラムの改革を求められるもう一つの大切なところは、精読授業を総合日本語に変更したことです。会話、聴解の授業に合わせて、併合するために、教師間の連携が必要です。会話を担当している先生も、精読の内容を把握して、アウトプットするような会話の活動につなげます。それから評価の工夫です。今までは中間テスト、期末テストですけれども、我々は、日ごろから学生同士の相互評価、先生からの評価によって、Can-doに基づいた新しい強化システムを今作っています。つまり形成的評価と終結的評価との交合、我々は今実践して、非常に大事だと思っております。

それから教員養成、教師教育も大切です。教師の外国語教育の理論と教授法の取得、教師自身の資質向上が必要です。そして、教育と研究とのバランス、学生と先生との関係の再構築、生涯学習理念の探求。つまり新しい教授観が、我々、21世紀の教師像が求められています。【スライド④-28】

今、問題になっているのは、カリキュラムですけれども、現在の大学のカリキュラムが何を求めているのか。技能、テクニク、それから運用能力と文化知識と、文化素養と書いてあります。第二外国語としての日本語教育は、課題遂行能力は入れましたけれども、専攻のカリキュラムが入っていないです。あとは異文化交流の能力も入れました。【スライド④-29】

これは各国カリキュラムの比較ですが、高校の日本語教育カリキュラムのほうが進んでいます。なぜかと言うと、高校の日本語教育カリキュラムは、アメリカの言語観、それからヨーロッパのCEFRに基づいて、私も一緒に入って2003年に作ったものだからです。とても進んだ教育理念に作られた高校、中学校のカリキュラムですが、でも現場では、現実にはちょっと難しいところもあります。【スライド④-30】

JF日本語教育スタンダード。今、中国全国で徐々に広げられています。徐々に受け入れられています。JF日本語教育スタンダードの日本語能力は、相互理解のための日本語能力、課題遂行力と異文化理解力とされていますが、これは、中国にとって非常に新しいと思います。内面的な論理的思考能力、相手に伝える

ための表現力、相手と互いに結びつくためのコミュニケーションの力は、我々、日本語教育の本当の目的ということです。【スライド④-31】

教師教育。これから教員養成の話題に移したいと思います。【スライド④-32】
現在、中国の若手教師は教員研修を受けたことがないし、教師教育についての理論的知識も持たない、外国語の学位しか持っていない、そういう先生が多いです。年配の先生も教育学を知りません。今まで中国の日本語教育は、ほとんど文法教育、あるいは文学、言語文学に重点を置いて、教授法とか、あまり知らないまま40年も立ってきました。研修を受けた教師でさえも、ある程度、外国語理論を持っていますけども、どのように実践と結びつくのか、非常に戸惑っている。外国語教師として、どのような知識が必要か、外国語教授法を知っていると、教師自身の発展とどう結びつけるか、非常に今、関心を寄せられています。【スライド④-33】

教師の役割。中国では昔から「伝道」「授業」「解惑」という言い方があります。「伝道」は、道を教える。つまり教師は教えるという考え方。「授業」は今の日本語では授業になって、昔、中国では技能を教えること。「解惑」はつまり問題解決、分からないところを教えるという意味。とにかく教師は上というような立場ですけれども、これからは、平等の立場へ。これは中国においては大きな変革で、日本語教育だけじゃない、教育学全体、大学全体が今、変わってきている。華東師範大学も含めて。知識の共有、ともに人格形成を促進するということが、今、中国の教育部の新しいキャンペーンになっています。そうすると、教師はまず養成、着任、研修、この3段階を踏まないといけないということが分かりました。だから英語もそうですし、中国では教師教育がブームになっています。もちろん生涯教育、生涯学習の理念の確立も必要。【スライド④-34】

今まで教師は絶対的な存在の中国では、これから学生を中心とする教育理念への展開は、非常に変革時期になっていると思います。これから受験勉強から人間性を育てる。知識と技能、課程、カリキュラムと方法、感情、態度、価値観を育てるということ。知識本意から学生を中心への転換。今は徐々に変わってきています。【スライド④-35】

教員養成がなぜ必要なのかということは、中国の現状で言いますと、日本語学科の新設増加につれて、教師の数は急増。今、1万人を超えている現状です。若手教師が多数を占める各大学の教師は、日本語教育に携わっているが、日本語

教育に関する職業的能力を含めた専門性の欠如が現実。従来の文法知識、先ほど言いました、コミュニケーションにどういふふうに変更するのか。つまり、学生の主体的・創造的学習への支援など、外国語教育の目標と理念の転換により、教育経験が豊富な日本語教師であっても、教育観と教育方法の吟味と変革も求められています。

また、授業の質の向上およびその進め方の改善と目的。つまり学生の総合的な素質と能力の向上ということの指導が今は足りない。経済の発展と国際化。中国は非常に、今、国際化、国際化と言っていますけれども、その需要により、多様な動機と学力を持つ大学生を対象に教育を進めるために、日本語教師の教育能力をどうしたらいいのかということになります。【スライド④-36】

そこで教師の専門性が必要になります。それには教師自身のモチベーションが必要で、指導的立場にいるリーダー的な教師が果たすべき役割も大きい。ここで言っている専門性というのは、大学教師として備わるべき教育・研究のための、専門知識と能力および社会貢献の精神を含む、職業的特性ということです。中国の大学の日本語教師は最近、日本語学および日本文学・文化や社会学の修士課程、博士課程で学んだ人が多くなっていますが、日本語教育に関する専門的な



知識、教授能力を学んだ人は少ない。それで専門性の研修が必要なのです。【スライド④-37】

そのために、我々が今年立ち上げたのが、中国の日本語教育研究会の指導のもとに、華東師範大学、北京外国語大学、北京師範大学、国際交流基金北京日本文化センター、この4つが連携した、これからの5カ年計画です。今年は第1期として、北京師範大学では、「教師の専門性の発展とはなにか-その理論と課題-」というテーマでした。お招きした教育学、英語の専門家の講演は非常に好評でした。150名の教師が参加しました。来年も決まりました。華東師範大学で、学生という立場から、もちろんアンケート調査もしますが、[学生の学習に注目して-学習理論・教育目標と教育実践]というテーマで行う予定です。丸山先生には基調講演としてお願いする予定です。【スライド④-38】

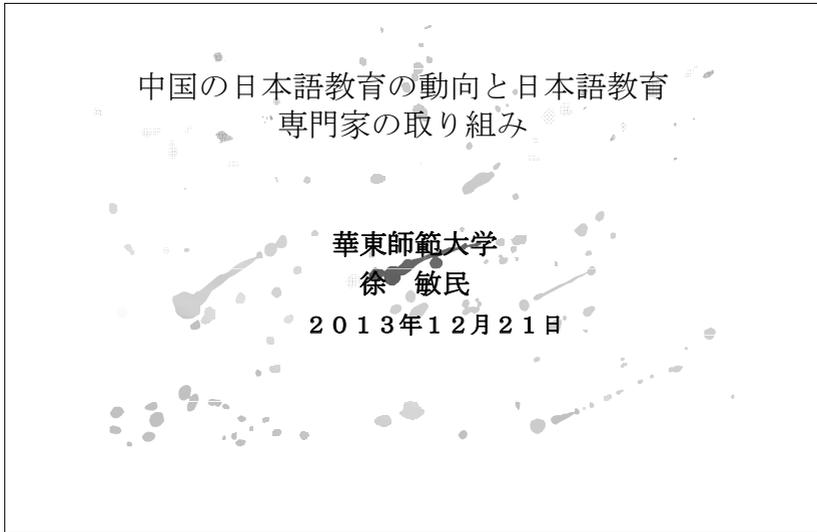
教師に対する提言です。何を教えるのか。学科知識をどう教えるのか、それからなぜ教えるのかを議論する必要があります。それから感性から理性への教師の実践知識の展開が必要です。学生を中心とする教育理念の徹底ということは、やっぱりカリキュラム、教材、学生と環境を把握し、教師の専門性を求めることにつながります。教師の専門知識は教育の資質向上と効果に深く関わっているために、その実践と反省を通じて、学生の学習体験を改善し、授業の効果が初めて高められます。【スライド④-39】

今後の課題。華東師範大学と立教大学との共同プロジェクト、『新界標日本語総合教程』の第3冊、第4冊を作成。学生たちは楽しみにしているし、全国にも広げたいから、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。カリキュラム改革、我々は今、実践して、華東師範大学で挙げられた成果を、来年公開授業を設けて、研修に来ていただく先生方に、Can-doに基づいた授業を皆さんと共有したいと思います。最後に、我々の目標としては、国際化になっている社会では、受信から発信、広い知見や国際的感覚を持つ人材を育成することが、我々の今後の課題と思います。【スライド④-40, 41, 42, 43】

ご清聴ありがとうございました。(拍手)

○平山 徐先生、ありがとうございました。ではここで、10分間の休憩を挟みます。第2部は、3時5分より開始いたします。なお、本日のシンポジウムの共催の小出記念研究会の資料が、前方入り口を入ったところにございます。どうぞご覧ください。

【スライド④-1】

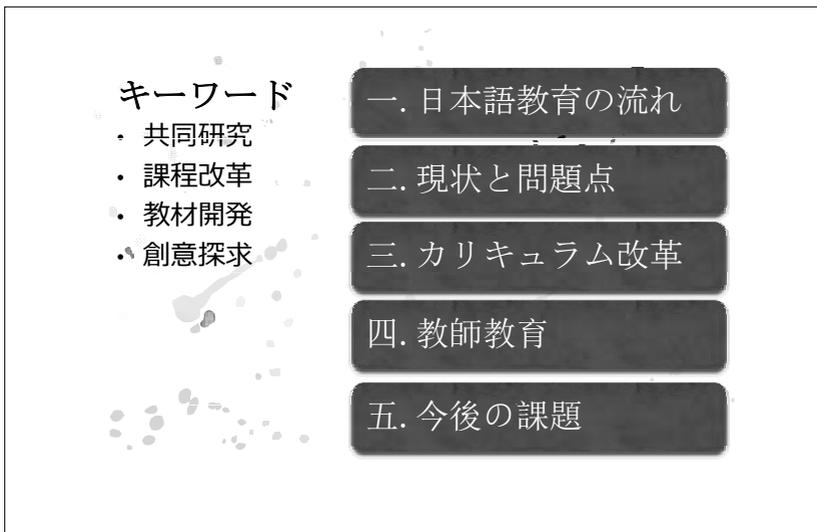


中国の日本語教育の動向と日本語教育
専門家の取り組み

華東師範大学
徐 敏民

2013年12月21日

【スライド④-2】



キーワード

- ・ 共同研究
- ・ 課程改革
- ・ 教材開発
- ・ 創意探求

- 一. 日本語教育の流れ
- 二. 現状と問題点
- 三. カリキュラム改革
- 四. 教師教育
- 五. 今後の課題

【スライド④-3】

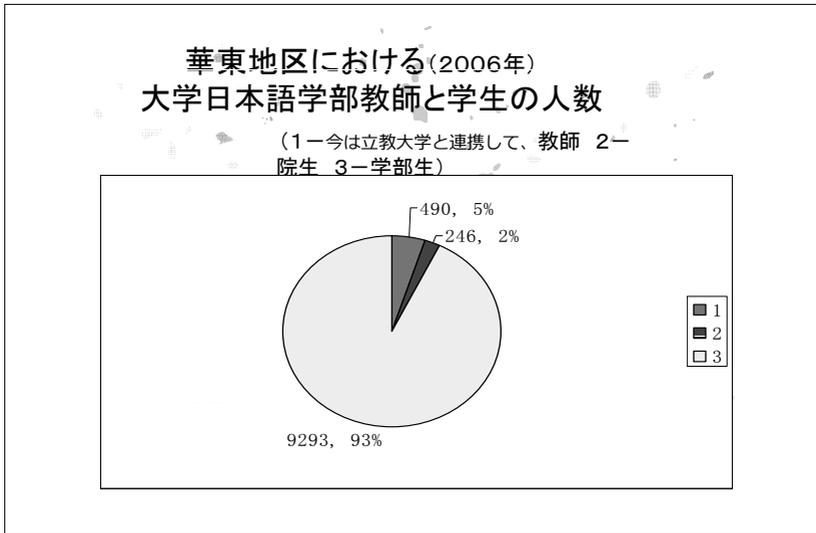
一、日本語教育の流れ

【スライド④-4】

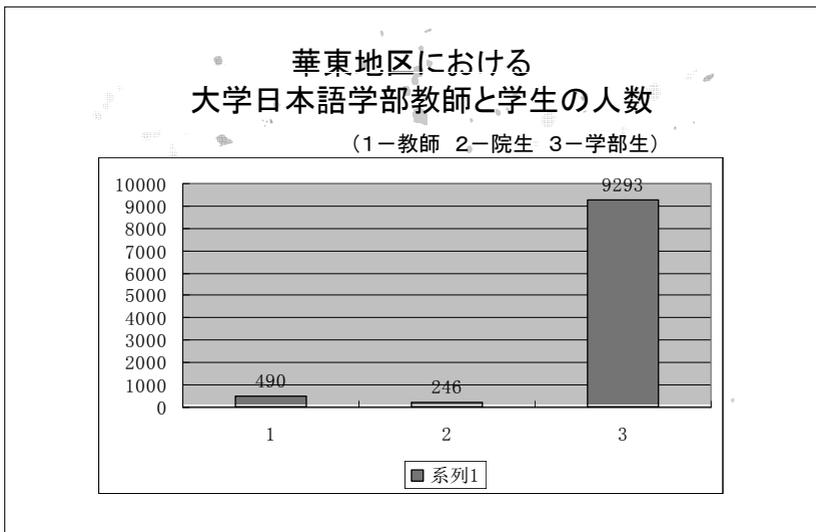
戦後における日本語教育

- 草創期 (1949～1965年)
- 断絶期 (1966～1971年)
- 始動期 (1972～1978年)
- 発展期 (1978～1990年)
- 成熟期 (1990～2000年)
- 転換期 (2001～現在)

【スライド④-5】

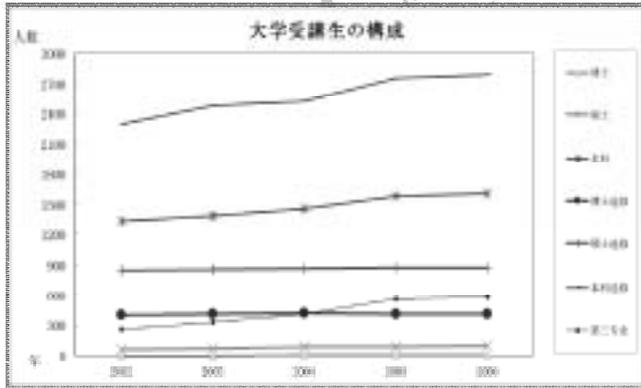


【スライド④-6】



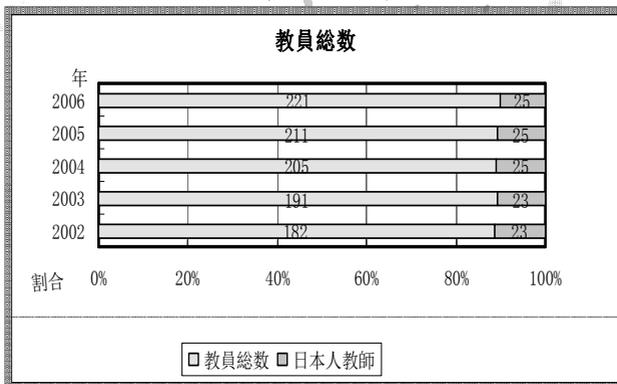
【スライド④-7】

各4年制大学における
日本語専攻、第二専攻の日本語学習者履修人数

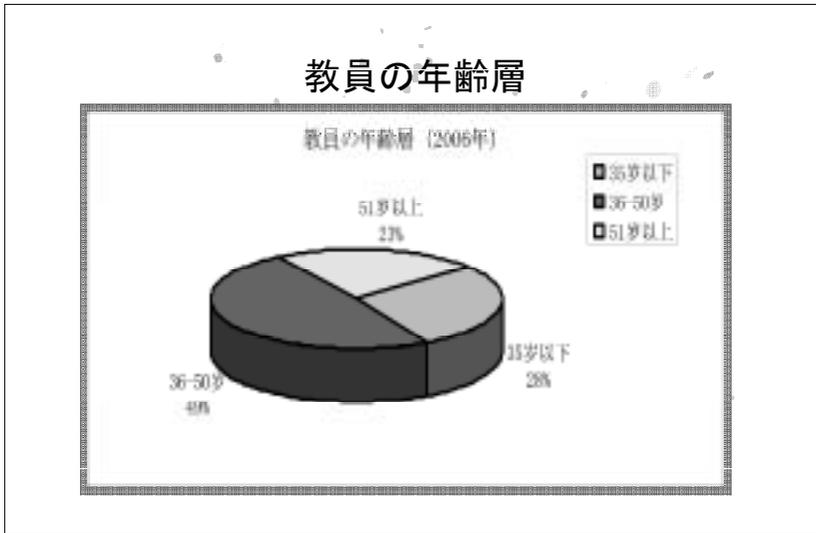


【スライド④-8】

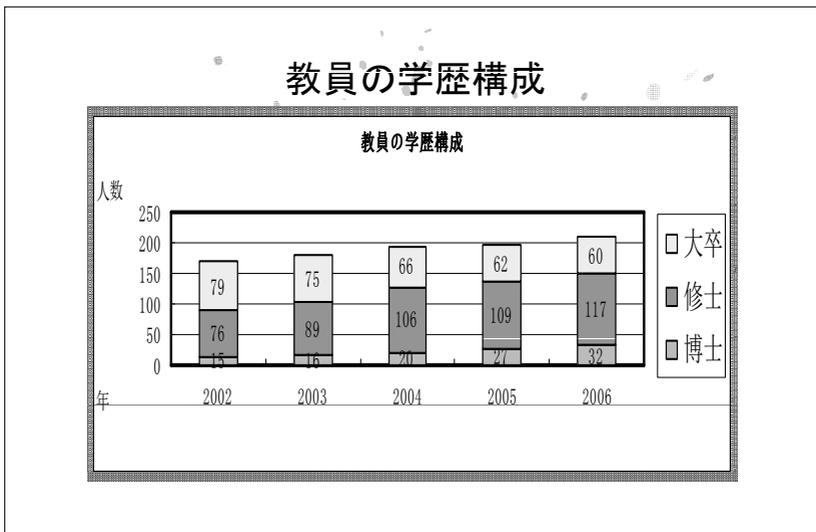
教員の総数



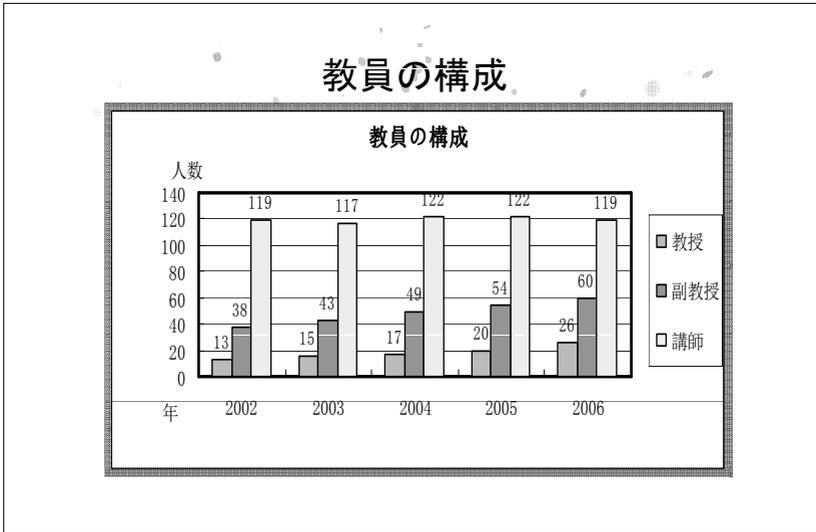
【スライド④-9】



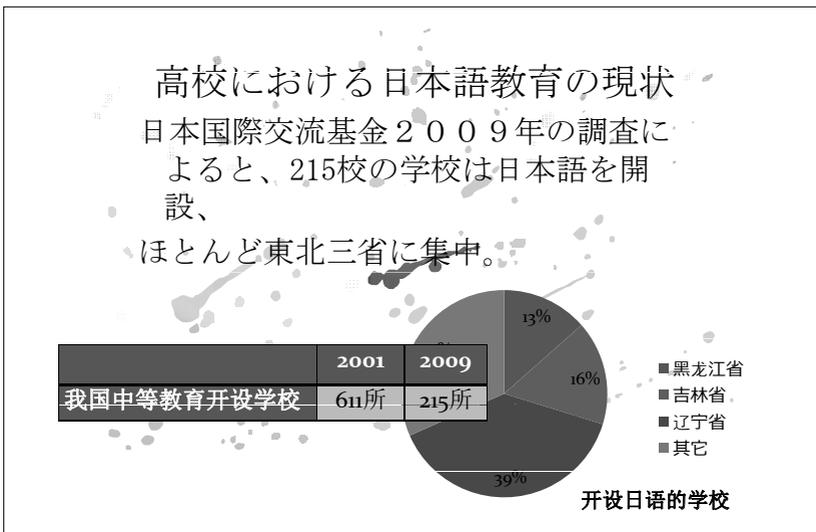
【スライド④-10】



【スライド④-11】



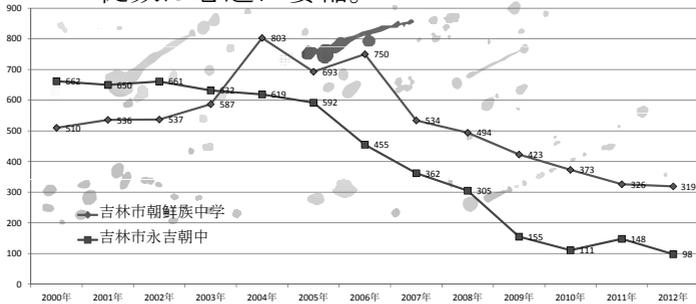
【スライド④-12】



【スライド④-13】

高校の日本語生徒数（2012）

- 生徒の現状：
- 近年来、中等教育における日本語生徒数は急速に萎縮。



【スライド④-14】

高校の日本語教員調査（2012）

- 調査対象：
- 27所学校55名高一~高三教師（インタビュー）
- 66名高一~高三教師（アンケート調査）
- 对上海甘泉中学的教师进行调研，以与东北三省教师进行对比

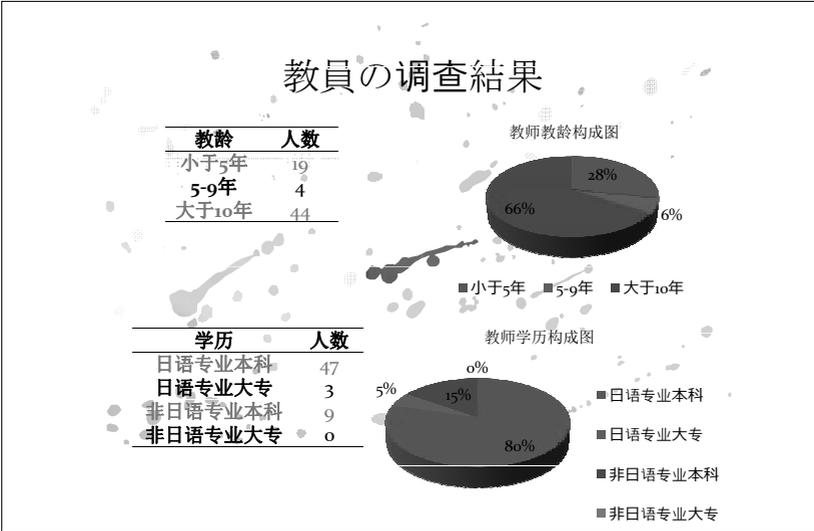
访谈

	蒙古族	朝鲜族	汉族	上海甘泉中学
人数	7	30	15	3
学校类别	重点中学 普通中学 乡镇农村中学	重点中学 普通中学	重点中学 普通中学 乡镇农村中学	城市普通中学

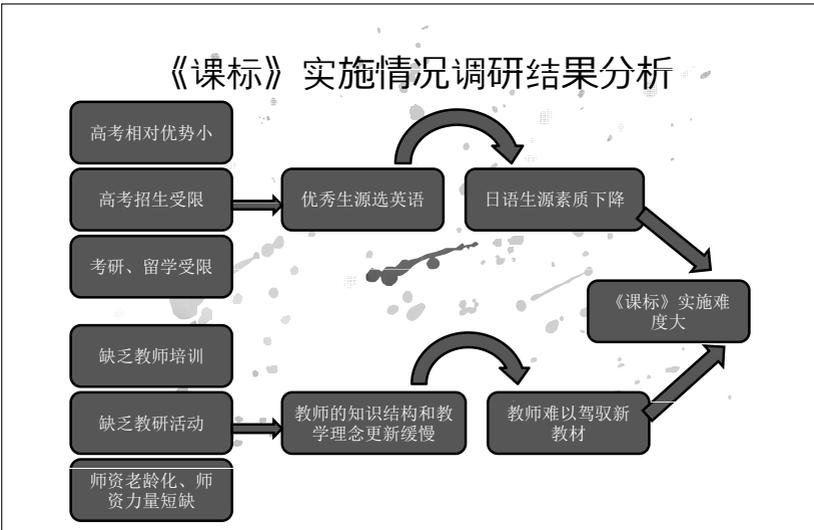
问卷

	蒙古族	朝鲜族	汉族	上海甘泉中学
人数	11	21	34	0
学校类别	重点中学 普通中学 乡镇农村中学	重点中学 普通中学	重点中学 普通中学 乡镇农村中学	城市普通中学

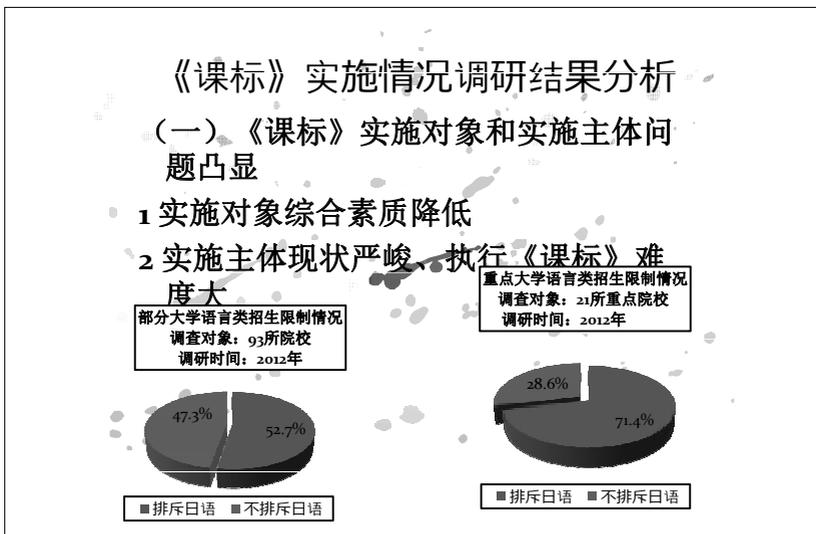
【スライド④-15】



【スライド④-16】



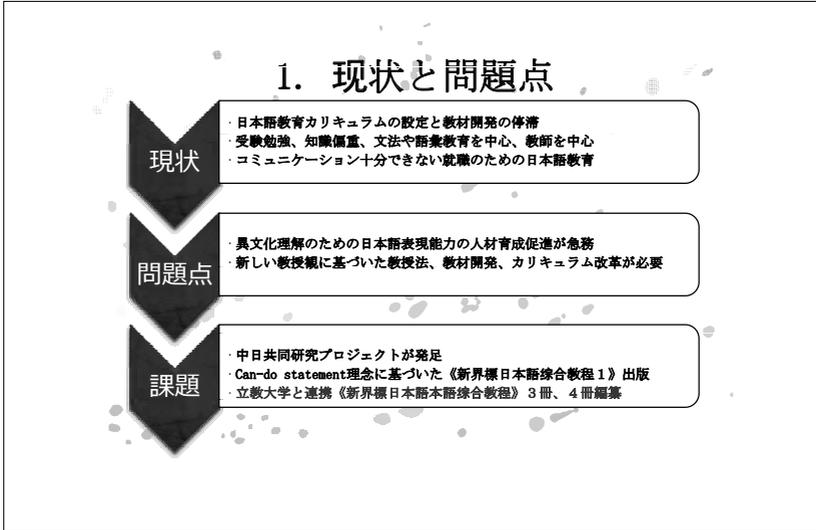
【スライド④-17】



【スライド④-18】



【スライド④-19】



【スライド④-20】

時代の変化に応じた共同研究

- 近年教材開発が進んでいるが、中国人独自の開発が限界になっている。《基礎日本語》などを例に。
- 「Can-do」の全体的なカテゴリーに基づいて新しい教科書を作ることが国際的視野を持つ人材育成の目標に繋がる。
- 受信から発信、就職のための日本語教育から、相互理解を促進するための教授観に展開することは、時代の流れに併せて求められた課題である。

【スライド④-21】

2. 主要参加者

国籍	氏名	職務	研究分野	学歴	勤め先
中国	徐敏民	教授	日本語教育学	博士	華東師範大学
	彭謹	准教授	国語教育	修士	華東師範大学
日本	喬穎	准教授	日本語教育学	博士	華東師範大学
	小川誉子美	教授	日本語学	博士	横浜国立大学
	四方田千恵	教授	日本語教育学	博士	横浜国立大学
	丸山千歌	教授	日本語教育学	博士	立教大学
	奥野由紀子	准教授	日本語教育学	博士	首都大学東京



【スライド④-22】



【スライド④-23】

新界標日本語の特徴

① 中日両国学者共同開発の最新理念

Can-do statement



- 文法シラバスからコミュニケーションを重視する内容シラバスへの転換
- 精読、範読、聴解、会話を一体化する総合日本語カリキュラムの改革
- 課題に基づいた表現力への重視

【スライド④-24】

③ 学生の思考能力と表現力の育成重視

題材
広範

内容
豊富

構造
厳密

言語
生動



留学生活の「場面」と「言語活動」を中心

【スライド④-25】

④学生を中心とする教育理念

- ロールプレー
- タスク
- 自己評価



【スライド④-26】

《新界标日语》

特徴

《基础日语》の長所を生かしながら新教育理念の徹底
新版“日本語能力試験”との関連重視

各課に目標を
設定

・「文法教育、知識重視」から表現能力への転換。

文法体系、会話内容、交流場面の一体化
話す、読む、書く、聞く総合

ロールプレー
タスク

・学習ストラテジによる学生の積極性を引き出す

【スライド④-27】

三、カリキュラム改革

【スライド④-28】

カリキュラム改革の必要性

- ① 《新界標日本語》は“Can-do”の理念に基づいて作られた教科書だから、知識偏重から学習者を中心とする教授法の変動が必要。
- ② カリキュラムの改革が求められる。従来の「精読」を「総合日本語」に変更、会話、聴解の授業をそれに併合するため、教師間の連動、協同作業が必要。
- ③ 評価の方法を工夫。中間テスト、期末テストから、日頃自己評価、学生同士の相互評価、先生からの評価によってCan-doに基づいた新しい評価システム、即ち、形成的評価と終結的評価の統合を確立することが大事。
- ④ 教員養成、教師教育が急務。教師の外国語教育の理論と教授法の取得、教師自身の資質向上が必要。教育と研究とのバランス、学生と先生との関係の再構築。生涯学習理念の探求によって新しい教授観が生まれ、21世紀の教師像が求められる。

【スライド④-29】

大学日本語カリキュラム

- 日本語の基礎知識
- 聴く、話す、読む、書く基本的技能
- 日本語総合運用能力
- 日本社会文化知識と理解能力
- 総合文化素養
- ある程度日本語で課題遂行能力
- 異文化交流能力

【スライド④-30】

《高校日本語カリキュラム》

- 各国カリキュラム比較

	頒布時間	課程目標
美国标准	1999年	(1) 运用外语交际 (2) 体验多元文化 (3) 关联其它学科获得信息 (4) 洞察语言与文化特征 (5) 参加国内外多元社区活动
欧洲标准	2001年	(1) 面向行动的外语教学 (2) 多元语言主义
韩国标准	2002年	(1) 听说读写技能、互联网检索能力的培养与关注日本社会生活文化并重 (2) 理解日本人的言语行为 (3) 积极参与交际活动及文化理解。
中国标准	2003年	语言知识、语言技能、文化素养、情感态度、学习策略的综合发展

【スライド④-31】

JF日本語スタンダード

- 相互理解のための日本語能力
 - 課題遂行力
 - 異文化理解力
- 1 内面的な論理的思考能力
 - 2 相手に伝えるための表現力
 - 3 相手と互いに結びつくためのコミュニケーション力

【スライド④-32】

四、教師教育

【スライド④-33】

問題提起

- 1 教員研修を受けたことがないし、教師教育についての理論的知識も持たない、外国語の学位を持っているだけ。
- 2 研修を受けた教師はある程度外国語理論を持っているが、どのように実践と結びつくか戸惑う。
- 3 外国語教師としてどのような知識が必要か、外国語教授法を知っていると、教師自身の発展とどう結びつくかなど、非常に関心を寄せられている。

【スライド④-34】

教師の役割

- 1 “伝道” “授業” “解惑” から平等の立場へ、知識の共有、共に人格形成を促進。
- 2 教師教育、教師の養成、着任、研修の三段階。
- 3 生涯教育、生涯学習の理念を確立。

【スライド④-35】

学生を中心とする教育理念

1. 受験勉強から人間性を育てる
2. 知識と技能、課程と方法、感情態度と価値観
3. 知識本意から学生を中心への転換

【スライド④-36】

教員養成の必要性

1. 各大学の若手教師は日本語教育に携わっていながら、日本語教育に関する職業的能力を含めた専門性の欠如が現実。
2. 異文化コミュニケーション能力の重視、学生の主体的・創造的学習への支援などの目標と理念の転換により、教育経験が豊富な教師であっても、教育観と教育方法の吟味と変革が求められている。
3. 授業の質的向上、学生の総合的素質と能力の向上、そのための研修と指導が足りない。
4. 多様な動機と学力を持つ大学生を対象に教育を進めるために、日本語教師の教育能力と理念更新が急務。

【スライド④-37】

教師の専門性

1. 教師の専門性向上は、教師自身のモチベーションが必要となる一方、指導的立場にいるリーダー的教師が果たすべき役割が大きい。
2. 大学の日本語教師は最近日本語学及び日本文学・文化や社会学の修士課程や博士課程で学んだ人が多くなったが、日本語教育に関する専門的な知識と教授能力を学んだ人が少ない。
3. 教師の専門性の発展、特に不足している教育能力の向上を目指して研修プロジェクトを発足した。

【スライド④-38】

教員研修プロジェクト

連携：中国日本語教育学会

- 華東師範大学日本語教育研究センター
- 北京外国語大学北京日本学研究センター
- 北京師範大学日本語教育教學センター
- 日本国際交流基金北京日本文化センター

1. 日本語教育学会は2013年から5カ年計画を立て、日本語教師の専門性向上を課題にリーダー的教師の研修事業を継続的に発展させていく。
2. 2013年8月、第一期として北京師範大学で「教師の専門性の発展とはなにか-その理論と課題-」を開催。
3. 2014年11月、第二期として華東師範大学で「学生の学習に注目して-学習理論・教育目標と教育実践」というテーマで行う予定。

【スライド④-39】

教師に対する提言

- 何を教えるか（学科知識）、どう教えるか（学科教育知識）、なぜ教えるか（教育価値観と教育理念）。感性から理性へ（教師の実践知識の展開）。
- 学生を中心とする教育理念の徹底。学生の学習目標を達成させるために、カリキュラム、教材、学生と環境を把握し、教師の専門性を求められる。
- 教師の専門知識は教育の資質向上と効果に深く関わっている。実践と反省を通じて学生の学習体験を改善し、授業の効果が高められる。

【スライド④-40】

五、今後の課題

【スライド④-41】

今後の課題

- 華東師範大学と立教大学との共同プロジェクト《新界標日本語総合教程》第3冊、第4冊を作成。
- カリキュラム改革の成果を広げる。
- 受信から発信、広い知見や国際的感覚を持つ人材を育成する。

【スライド④-42】

参考文献

1. 国際交流基金（2010a）『JF日本語教育スタンダード2010』
2. 吉島茂・大橋理枝訳（2008）『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社
3. 徐 敏民、丸山千歌主編（2013）『《新界標日本語総合教程》復旦大学出版社』
4. 徐 敏民主編（2006）『基礎日本語』復旦大学出版社
5. 彭瑾 徐敏民（2013）“试论《JF日语教育标准》给我
国日语教育改革带来的启示—以高等教育日语课程标准的比较考察为切入点”《日语学习与研究》第1期

【スライド④-43】

